

地方創生推進交付金事業実施状況及び事業の評価									
事業名	養父市訪問かいこ事業～養蚕イノベーションプロジェクト～								
交付金名	地方創生推進交付金事業(地方創生推進タイプ)								
事業年度	令和2年度～令和4年度(3年間)								
事業概要及び事業費	<p>①桑の木を植える 耕作放棄地や耕作が困難になっている農地などに植えていくことで、荒廃化を防ぎます。また、食用に適した品種の桑を植えることで、桑の葉、桑の実を活用した製品を製造する。植栽にあたっては高さや間隔の管理を行うことで、障がい者や高齢者など誰もが作業できるようにする。</p> <p>②養蚕施設の設置をする 養蚕農家が0件となった本市において、低コストで参入が可能な養蚕モデルを構築する。</p> <p>③高付加価値化 桑による6次産業化、高付加価値を行っていくため、地元農業高校と連携した取り組みを促進していく。</p>								
	年度	事業概要						事業費	
	R2	<p>【養蚕プロジェクト事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で一定程度まで飼育された蚕を福祉施設でセラピーを兼ねて飼育。生産された繭を企業が買い取る。 ・桑畑や飼育施設を整備し蚕を飼育。養蚕による障がい者雇用を創出し、生産されたさなぎを販売する。 ・農業高校と連携し新たなブランドとして食用桑を生産し販売する。 資材費410,553円						411千円	
	R3	<p>【養蚕プロジェクト事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桑畑や飼育施設を整備し蚕を飼育。養蚕による障がい者雇用を創出し、生産されたさなぎを販売する。 ・新たな養蚕参入事業者として地域おこし協力隊を委嘱し、蚕の飼育や新商品の開発をする。 補助金7,000,000円 資材費262,174円						7,262千円	
	R4	<p>【養蚕プロジェクト事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桑畑や飼育施設を整備し蚕を飼育。養蚕による障がい者雇用を創出し、生産されたさなぎを販売する。 ・新たな養蚕参入事業者として地域おこし協力隊を委嘱し、蚕の飼育や新商品の開発をする。 補助金92,000円 資材費292,820円						385千円	
計							8,058千円		
KPI	評価指標(KPI)	開始前 R2	目標値			実績値			
			R3	R4	R5	R3	R4	R5	
	①障がい者・高齢者雇用	0人	2人	3人	2人	0人	0人	0人	
	②養蚕参入者数	0人	1人	1人	1人	0人	1人	1人	
事業評価	R2	新型コロナウイルス感染症の影響により、福祉施設等で訪問かいこ事業の実施を見合わせていることや地域間連携・産学連携が思うように展開できなかった。また、主体となる事業者の方針変更により、養蚕施設の整備が実施できず、桑畑の整備のみにとどまった。新型コロナウイルス感染症の影響は大きいものの、少しずつでも飼育規模の拡大を行っていき、出荷や新たな商品開発により売上を創っていく予定である。							
	R3	養蚕プロジェクトに関する活動に従事する地域おこし協力隊を委嘱、また、養蚕施設及び桑畑の整備に取り組む事業者により、少しずつであるが養蚕をする基盤整備が進んでいる。ただし、飼育量・生産量が少なく、出荷や新規雇用するまでには至っていない状況である。地域産業の振興に関することや桑の栽培を含む養蚕事業に関することなどを包括的に連携していくため、第一工業製薬株式会社と包括連携協定を締結したことにより、今後の生産・供給体制の構築が期待される。							
	R4	前年度に引き続き、養蚕プロジェクトに関する活動に従事する地域おこし協力隊を委嘱したことにより、養蚕参入事業者は増加した。一方で、養蚕施設を整備した事業者では飼育効率や販路確保に課題があり、一旦養蚕を休止。前年度同様に、飼育量・生産量が少なく、出荷や新規雇用するまでには至っていない状況である。なお、少しずつではあるが桑畑の整備は拡大しており、桑の葉の有効利用も含めた生産・供給体制の検討が必要である。							
担当課	経営政策・国家戦略特区課								